



CSR

REPORT 2019

Corporate Social
Responsibility Report



理研ビタミン株式会社

トップメッセージ



2019年、理研ビタミンは創立70周年という節目の年を迎えました。これまで支えてくださった全ての皆さまに、深く感謝申し上げます。

昨今、CSR経営やSDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等が注目されており、「持続可能」がキーワードになっています。

20世紀は工業化社会が急速に発達し、たしかに一部の国、人々は豊かになりました。しかし、21世紀に入り社会的にも環境面でもひずみがいろいろな分野で顕在化し「このままではどこかで大きく破たんするのではないか」という不安もよぎります。このような中、21世紀の世界が抱える課題を解決するため、国連加盟国193カ国が全会一致で採択した目標がSDGsです。

投資分野においても、ESG投資への動きが拡大しており、企業も財務上の実績だけでなく、社会や環境への取り組みといった非財務的な活動も求められています。企業は自社の事業が中長期的に経済や環境、社会にどのような影響を与えているかを評価、認識し、それらの課題解決に積極的に取り組み、持続可能なビジネスモデルを提示する必要があります。

□編集方針

本レポートは、理研ビタミンの「みんな良し」(CSR)に対する考え方や活用内容について、ステークホルダーの皆さまに報告することを目的に作成しました。「ゆりあげファクトリーの取り組み」を特集して、ISO26000の7つの中核主題別に、2018年度に取り組んだ内容を中心に編集しています。



目次

当社は、理化学研究所に起源を発し、抽出、精製、濃縮、そして形態多様化というコア技術をもとに、企画開発力によって新カテゴリーを創出してきた技術開発型の企業で、理化学研究所の創立時から、“天然物の有効利用を図る”ことをポリシーに研究開発を続けています。近年では、理研食品(株)(理研ビタミンのグループ会社)が、宮城県名取市に「ゆりあげファクトリー」を開設しました。ゆりあげファクトリーでは、わかめ養殖の安定生産や労働の軽減化といった海藻産業が抱える課題について、研究開発の視点から提案を行い、わかめの生産性向上に取り組んでいます。

近江商人の経営哲学の一つとして「三方よし」が良く知られていますが、当社では、CSR活動を“みんなよし”活動と呼んで取り組んでいます。「CSRレポート2019」では、当社の“みんなよし”の取り組みを、ISO26000の中核主題に基づいた当社グループCSR基本方針にそって7テーマに分けて報告しています。

これからも食品事業、改良剤事業、ヘルスケア事業の3事業を通じて、経営理念の第一である“社会に対し、食を通じて健康と豊かな食生活を提供する”ことで、社会の持続的な発展に貢献していきたいと思っています。

理研ビタミン株式会社
代表取締役社長

山木一彦

02 トップメッセージ

特集

04 海藻産業の活性化へ ゆりあげファクトリーの取り組み

06 理研ビタミングループのCSR

08 ●組織統治

・・・コーポレートガバナンス/リスク管理体制/
コンプライアンス体制

09 ●公正な事業慣行

・・・知的財産権の保護/情報セキュリティの推進/
コンプライアンスマインドの醸成

10 ●人権

・・・ハラスメントの防止/企業倫理ホットライン/
ダイバーシティの推進/健康経営の導入開始

12 ●労働慣行

・・・人材育成/ワークライフバランス/労働安全衛生

14 ●環境

・・・環境マネジメント推進/マテリアルフロー/
FSC®認証紙の採用/RSPOへの加盟/
地球温暖化防止/廃棄物の削減

17 ●消費者課題

・・・品質保証/適時適切な情報開示/
お客さまとのコミュニケーション

18 ●コミュニティへの参画及び コミュニティの発展

・・・理研ビタミンの“未来を拓く食育”/
企業訪問の受け入れ/国連WFPへの協力活動/
地域のイベントへの参加

□対象範囲

理研ビタミン株式会社
(一部グループ会社に関する報告も含まれます)

□対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日
(一部対象期間外の内容も含まれます)

□参考にしたガイドライン

ISO26000 (社会責任に関する手引き)

□発行時期

2019年7月 (次回: 2020年7月発行予定)

■会社概要 (2019年3月31日現在)

商 号: 理研ビタミン株式会社

設 立 日: 1949年8月27日

本 社 所 在 地: 東京都千代田区神田三崎町2-9-18

資 本 金: 2,537百万円

従 業 員 数: 945名(連結2,286名)

海藻産業の活性化へ ゆりあげファクトリーの取り組み

理研ビタミングループは、天然原料の有効活用を事業活動の中心に据えており、「社会に対し、食を通じて健康と豊かな食生活を提供する」ことを経営理念としています。

社会や自然との調和を図りながら事業活動を行い、環境負荷低減に向けた取り組みを進めていきます。

■ 近年のわかめ産業を取り巻く課題

日本における養殖わかめの約7割は岩手県および宮城県
の沿岸で生産され、「三陸わかめ」のブランドで知られて
います。

しかし近年、養殖わかめの生産量は減少傾向にあり、
2019年の三陸共販実績の数量は約2万1千トンと、もっと
も多かった1999年の半分以下に落ち込んでいます。



近年のわかめ産業を取り巻く課題

気候変動による
生産量低下

生産者の高齢化

寒冷期の過酷な
労働条件での作業負荷

■ 理研食品の取り組み

東日本大震災以降、理研食品(株) (理研ビタミンのグループ会社) では、わかめ生産性向上のための
の優良系統の開発や種苗生産の安定化に取り組んできました。

■ わかめ生産性向上のための優良系統の開発

「わかめの苗」ともいえる種苗の優良系統を選抜するために養
殖水槽を開発し、それを用いて全国各地のわかめの特性調
査と選抜試験を実施し、早生(わせ)や晩生(おくて)の優良系
統を確立しました。

(文部科学省・東北マリンサイエンス拠点形成事業の一環)



優良系統を選抜するための浮遊回転式養殖水槽
(CFCS水槽: Circulation and Floating Cultivation System
【特許第6024879号】)

■ 優良系統を活かすためのわかめの苗ともいえる種苗生産の安定化

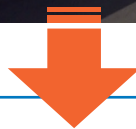
パナソニック(株)との共同研究によって、野菜工場の設計で用いられている複数の環境要素を
考慮したシミュレーション技術を活用して種苗生産条件の最適化を行いました。



■ ゆりあげファクトリーの開設

これらの研究成果をもとに、2017年7月に「ゆりあげファクトリー」(宮城県名取市)を開設し、わかめ種苗生産を開始しました。

優良種苗の安定生産により、その後の海上におけるわかめ養殖の生産性が向上することが期待できます。2018年度は約12,000mの種苗糸を生産し、宮城県南三陸町のほか各地で活用いただきました。



■ 海藻産業の活性化にむけて

わかめ養殖では生育初期に枯死する「芽落ち」が生産量減少の原因となっていることから、2018年度は種苗生産条件の最適化で得た知見を活かして種苗のストレス耐性に関する研究を実施しており、養殖技術改善につながる結果が得られつつあります。

そのほか、「早生種苗」や「晩生種苗」の系統を併用する事で、これまで1回/年だったわかめの養殖を、将来的には2回/年に増やすことも研究しています。

環境変動に対応した
安定的な生産量の確保

作業時期の分散による
生産の効率化
(労働の軽減化)

年に複数回の養殖による
生産量の増加

理研ビタミングループのCSR

理研ビタミングループは、「社会に対し、食を通じて健康と豊かな食生活を提供する」ことを経営理念として掲げています。

この経営理念をグローバルな視点をもって実践し、独自性のある技術と従業員一人ひとりの創意工夫により新たな価値を発信し続けることが、CSRの基本であると捉えています。

■ 経営理念

わたしたち理研ビタミンの「企業理念」は、1917年(大正6年)の理化学研究所創立時から「天然物の有効利用を図る技術と商品で、人々の健康と栄養に寄与し、社会に貢献する」ことです。この企業理念を継承し「経営理念」として掲げます。

社会に対し、食を通じて 健康と豊かな食生活を提供する

天然原料を事業展開の中心に捉え日々の生活に健康・安全・安心・豊かさを満たす製品の供給を行い、食生活の向上に貢献する。

コンプライアンス精神に基づいた 事業活動を行い、社会的責任を果たす

顧客・株主・取引先・地域社会等のすべての利害関係者を尊重し、
全社員が高い倫理観に基づいた行動と法令遵守の精神で全ての事業活動を行い、
社会の一員として、社会的責任を果たし、信頼される企業となる。

フレキシビリティのある かつ創造性に溢れた企業として発展する

メーカーとして、当社固有の生産シーズ(得意な原料・技術・設備)を活用して、
多様化する、変化する、高度化する顧客ニーズに迅速・的確に対応する柔軟で創造力のある企業を目指す。

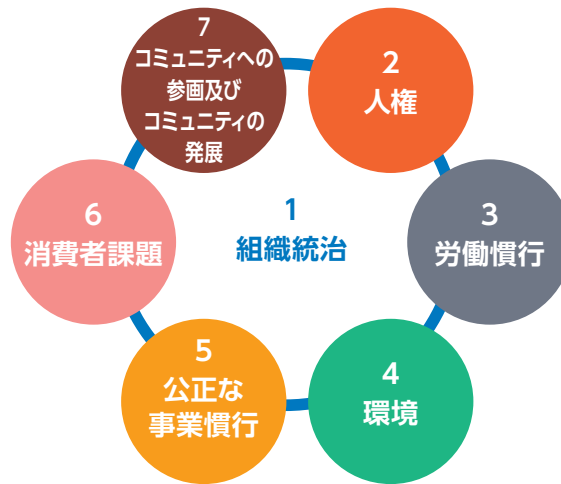
事業活動の視点・範囲を海外にも向け 「世界の理研ビタミン」としてのブランドを高める

企業活動のエリアを海外にも求め、内外のニーズに応えることにより、グローバルな企業としての存在感を高める。

人間尊重の思想に基づき 魅力ある職場をつくる

バイタリティに溢れた企業として、社員一人一人の創意工夫を尊重し、
福祉向上を図ることにより生きがいを持って働ける魅力ある職場をつくる。

CSR基本方針



① 組織統治

理研ビタミングループが事業を展開する全ての国・地域において法令を遵守し、ステークホルダーに与える影響を考慮しながら事業活動を行います。
また、迅速な意思決定を行うことのできる組織体制のもとで情報を適切に開示し、透明性の高い経営を行います。

② 人権

多種多様な能力・価値観・発想を持った個性を認め合い、ステークホルダーの人権を尊重した事業活動に努めます。

③ 労働慣行

従業員が安心して働くことのできるより良い職場環境を整えます。また、円滑なコミュニケーションのもとで能力を発揮し、やりがいを持って働くことのできる、自由闊達な風土づくりを進めます。

④ 環境

理研ビタミングループは、天然原料の有効活用を事業活動の中心に据えています。地球環境の尊さに感謝し、社会や自然との調和をはかります。

⑤ 公正な事業慣行

コンプライアンス精神に基づき、公正で誠実な取引を行います。また、取引先との信頼関係を大切に、互いの権利を尊重します。

⑥ 消費者課題

独自性のある原料・技術を活かし、安心安全かつお客さまの満足度を高める商品・サービスを提供します。

⑦ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

事業資産や知見を活かして地域貢献度を高め、コミュニティと一体となった発展に努めます。

CSR推進体制

理研ビタミングループでは、CSR経営を推進するために、「CSR推進委員会」を設置しています。

CSR推進委員会は、「CSR基本方針」に基づきステークホルダーを重視した活動を推進し、社会の持続可能な発展に貢献していくため、理研ビタミングループのCSR活動を活性化させ、社内外に情報発信していきます。

CSR推進委員会

委員長：理研ビタミン代表取締役 社長

事務局：CSR推進部

開催頻度：3回/年(2018年度)

CSR研修会

理研ビタミングループでは、2004年よりテーマにそって学ぶ「企業倫理研修会」を年1回開催しておりましたが、より積極的なCSR活動の実践に向けて、2018年度より「CSR研修会」に改称し、対象を広げて実施しています。

・2018年度 講演テーマ：『SDGs*の狙いと経営への落とし込み』

・2019年度 講演テーマ：『LGBTと企業の対応』

※SDGs：Sustainable Development Goals



CSR研修会

組織統治

理研ビタミングループが事業を展開する全ての国・地域において法令を遵守し、ステークホルダーに与える影響を考慮しながら事業活動を行います。また、迅速な意思決定を行うことのできる組織体制のもとで情報を適切に開示し、透明性の高い経営を行います。

■ コーポレートガバナンス

理研ビタミンは、「経営理念」に立脚した事業活動を行う中で、株主をはじめとするさまざまなステークホルダーからの信頼を高めるとともに、迅速・果敢かつリスクを勘案した意思決定を行える体制を構築し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図り、経営の最重要課題の一つとして、コーポレートガバナンスの充実に取り組んでいます。

2017年からは、監査等委員会設置会社へ移行し、取締役会の監督機能の向上および経営の意思決定の迅速化を図っています。また、取締役会は監査等委員である取締役5名（うち4名が社外取締役）を含む12名で構成され、経営の効率化、業務執行の強化を目的として執行役員制度を導入しています。さらに、指名委員会および報酬委員会を設置し、取締役の選解任と報酬決定プロセスについて客観性と透明性の確保を図る体制としています。

当社の役員報酬制度として、中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意欲を高めることを目的に、業績連動型株式報酬制度を導入しています。また、2018年9月より、執行役員に対しても「株式付与E SOP信託」を導入しています。なお、経営の最重要課題の一つであるコーポレートガバナンスに対する会社の考え方や方針については、コーポレートガバナンス・ガイドラインを定め、Webサイトに開示しています。

コーポレートガバナンス・ガイドライン

※取締役人数は 2019年6月25日現在

■ リスク管理体制

理研ビタミングループの事業活動に係るリスクとしては、「安全性」、「研究開発」、「知的財産権」、「情報管理システム」、「為替変動その他外的要因」等が挙げられます。これらの予防と発生時の対処のために、当社および関係会社より選出された委員によるリスク管理委員会を設置し、年間3回の定例会を開催しています。

また、不測の事態発生時には、理研ビタミン社長を本部長とする危機対策本部を設置し、ステークホルダーの皆さまへの被害拡大を防止し、自社の損害を最小限に止めることとしています。2018年度において危機対策本部を設置する事態は発生しておりません。

2018年度 リスク管理委員会活動内容

開催日	主な議題
4月定例会	・2017年度リスク管理活動最終報告
8月定例会	・事業継続計画(BCP)関連活動報告
11月定例会	・個人情報管理状況の確認

リスク管理委員会

委員長：理研ビタミン総務担当 取締役
事務局：総務部
開催頻度：3回/年

■ コンプライアンス体制

理研ビタミングループでは、コンプライアンス実践の基準を定めて「行動規範」を制定しています。また、CSR推進部を事務局とするコンプライアンス委員会を設置し、各部署のコンプライアンス実行委員を中心に定期的に学習会を開く等、コンプライアンス意識の維持・向上を図っています。

■ コンプライアンス委員会

コンプライアンス経営の強化を図るために、「コンプライアンス委員会」を設置し、四半期ごとにコンプライアンス経営が適正に浸透しているかについての評価等を行っています。

コンプライアンス委員会

委員長：理研ビタミン代表取締役 会長
事務局：CSR推進部
開催頻度：四半期毎

公正な事業慣行

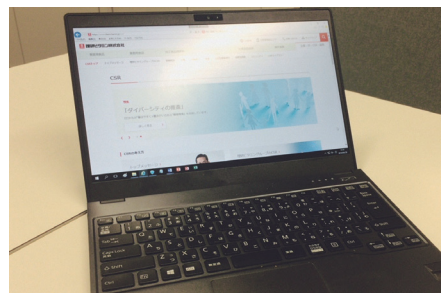
コンプライアンス精神に基づき、公正で誠実な取引を行います。
また、取引先との信頼関係を大切に、互いの権利を尊重します。

知的財産権の保護

理研ビタミンでは、特許権や商標権等の知的財産権を企業活動の維持および活性化に不可欠なものであると認識し、理研ビタミンの事業活動の自由度を損なう事がないよう権利の取得を行っています。
商品開発に際しては、他人の知的財産権を尊重し、他人の権利との重複を避けるために特許権および商標権の調査を行いながら研究・開発を進め、当社独自の技術開発、商品開発を行っています。
新入社員、開発部門および営業部門に所属する従業員に対して知的財産権に関する社内規程の説明会や知的財産権制度等の説明会を実施し、知的財産権の意義および制度概要の理解等、知的財産マインドの育成に努めています。
また、特許、意匠および商標に関する社内規程を設け、特許および意匠に関しては出願、登録した際には発明者および創作者に報奨金を支払い、特許権を実施して実績に寄与した場合には発明者に報奨金を支払い、優れた技術やデザインの創造支援を行っています。

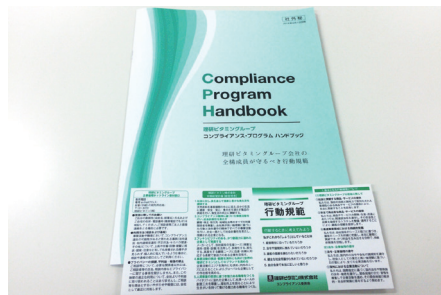
情報セキュリティの推進

理研ビタミンでは、情報資産の保護と適切な使用のため、情報セキュリティ対策を実施して、情報セキュリティの維持・向上を推進しています。
情報セキュリティ教育や定期的な啓発活動として、役員・従業員を対象にeラーニングによる「情報セキュリティ講習」や「標的攻撃型メールに対する訓練」を実施しています。このメール訓練は、役員・従業員への「情報セキュリティに対する危機意識の強化」を図るとともに、訓練結果を分析し今後のセキュリティ対策へ役立てることを目的としており、訓練後には、分析結果および情報セキュリティを取り巻くリスクについての報告会を開催しています。



コンプライアンスマインドの醸成

理研ビタミングループでは、各職場のコンプライアンス実行委員会を中心に「コンプライアンス学習会」を定期的で開催するとともに、全構成員に「コンプライアンス・プログラム ハンドブック」、「携帯用カード」を配布して、コンプライアンス意識の維持・向上を図っています。



人権

多種多様な能力・価値観・発想を持った個性を認め合い、ステークホルダーの人権を尊重した事業活動に努めます。

■ ハラスメントの防止

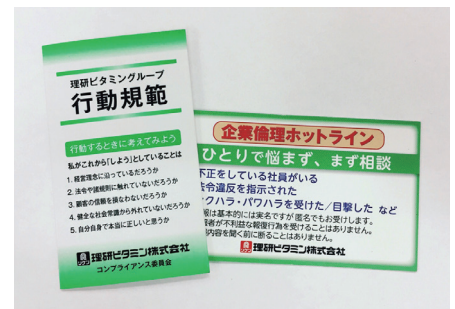
理研ビタミングループでは、各職場のコンプライアンス実行委員会を中心に「コンプライアンス学習会」が定期的で開催されています。国内各事業所においては、CSR推進部がハラスメントの勉強会を開催する等、ハラスメントの防止に努めています。



新入社員へのコンプライアンス研修

■ 企業倫理ホットライン

理研ビタミングループでは、ハラスメントやコンプライアンス違反等の相談ができる、「企業倫理ホットライン」を設置しています。専用電話やメール、封書による「社内受付窓口」のほか、専用電話・Webサイトによる社外（外部業者）受付窓口を開設し、携帯用カードを配布して啓発する等、利用しやすい環境を整えています。また、相談者が相談によって不利益な扱いを受けないよう、社内規定で定めています。



■ ダイバーシティの推進

人によって性別、年齢、価値観、文化、国籍といったバックグラウンドはさまざまです。また、ライフスタイルやキャリア、働き方への考えも多様化しています。企業組織はこうした「多様性」で成り立っています。

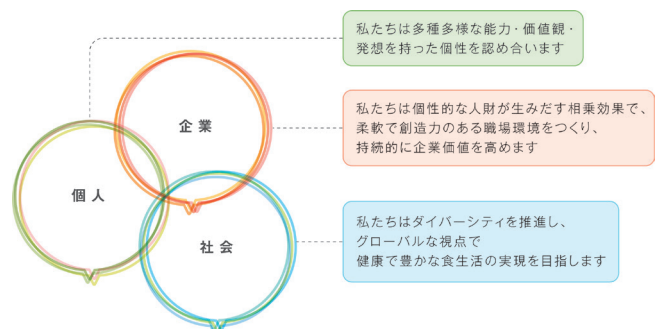
理研ビタミンは、従来の「自由闊達な社風」をベースに、2015年度から「ダイバーシティ推進」を掲げ、「多様性」を「個性」として尊重し、認め合い高め合うことで、組織のより良い活性化を図っています。

個性の尊重により、多様な人材が能力を十分に発揮し合うことで、新しい発想やアイデアが生まれイノベーションが起こる風土づくりをし、新たな価値創造型企業になることを目指しています。多種多様な個性、バックグラウンドを持つ社員一人ひとりが同じ意識を持ち、同じ方向を見据えてともに歩んで行くために、スローガンと行動指針を策定しています。

■ ダイバーシティスローガン



■ 行動指針



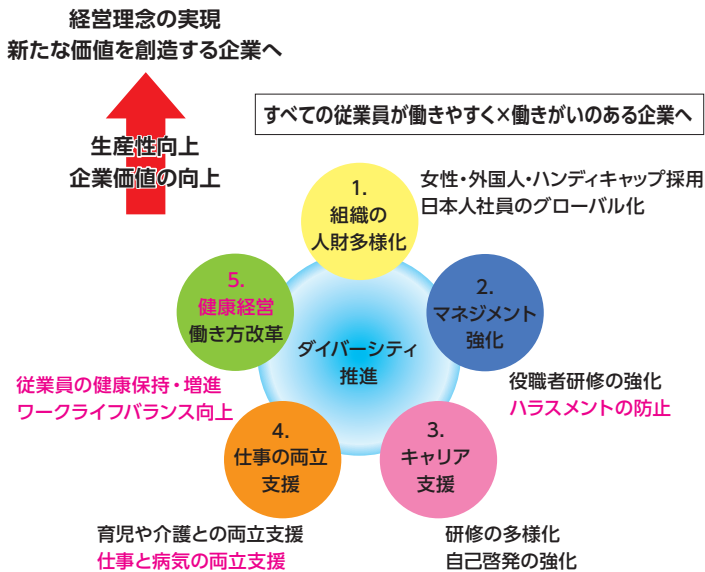
健康経営の導入開始

理研ビタミンでは、「多様な人材が働きやすく×働きがいのある職場醸成」を目指し、多様な従業員がいきいきと働き能力を発揮することで会社の組織力向上を図っています。

2018年度より、ダイバーシティの推進の第5の柱として「健康経営」を導入し、従業員が心身ともに健康で意欲的に活躍できる環境を醸成していきます。

この活動は健康保険組合と共同で取り組み、従業員とその家族の日ごろの健康を保持・増進することで、活発な職場環境を維持・推進し、仕事の活性化を図ります。

健康で活発な職場環境になるべく、「働き方改革」と連動し推進します。



- ① 多様な働き方の推進
- ② 公私の充実(有休取得促進・長時間労働の削減による社員のワークライフバランスの向上)
- ③ 健康増進の支援(健康保険組合との連携による受動喫煙の防止・健診の拡充)
- ④ やりがいを持って活躍し成長できる機会と環境の提供(コミュニケーション環境・リフレッシュ環境の充実)

8つのテーマ

- 1 健康診断100%受診
- 2 健康診断結果の活用
- 3 健康づくり環境の整備
- 4 「食」への取組み
- 5 「運動」への取組み
- 6 「禁煙」への取組み
- 7 「心の健康」への取組み
- 8 病気の治療と仕事の両立支援

理研ビタミン 健康宣言

健康宣言

わたしたちの経営理念では、「社会に対し、食を通じて健康と豊かな食生活を提供する」と謳っています。この実現のためには、「従業員とその家族が健康であること」が不可欠と考え、健康経営の推進を開始します。

わたしたちは、従業員とその家族が心身ともにすこやかであるよう努力し、いきいきとした自由闊達な職場風土を通して、この経営理念の実現を目指します。

理研ビタミン株式会社
代表取締役社長 山木一彦

「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」に認定

理研ビタミンは、2018年10月に「理研ビタミン健康宣言」を制定し、経営理念に基づいた8つのテーマを設定し、従業員が心身ともに健康になるための施策を実施しています。

それらの取り組みが評価され、「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」に認定されました。



労働慣行

従業員が安心して働くことのできるより良い職場環境を整えます。
また、円滑なコミュニケーションのもとで能力を発揮し、
やりがいを持って働くことのできる、自由闊達な風土づくりを進めます。

■ 人財育成

理研ビタミンでは、社員一人ひとりが自立性を高め、高度な専門性で課題を解決していけるプロフェッショナルな人財「プロ人財」になることを目指し、社員の能力開発に力を入れており、「階層別研修」「キャリアデザイン研修（全階層対象）」「部署・部門別研修」「自己啓発支援」の4本の柱を軸に、多様な教育機会を提供しています。

特に、若手社員には入社3年間で4回の研修を実施しており、“同期同士”の間柄だけでなく他部署・他部門への理解を深め、部署横断的な考え方を養っていくことで、社員一人ひとりが大きく飛躍していくことを目指しています。さらに、生産系の新入社員には、メンター制度を導入しており、生活面をフォローできる環境を整えています。



2年目フォローアップ研修

■ 人財育成の体系図



■ ワークライフバランス

理研ビタミンでは、1994年から全ての従業員が家庭と仕事の両立を図れるよう、育児・介護等の両立支援制度を設けています。現在は、ダイバーシティ推進の一環として多様なライフイベントに左右されず、だれもが働き続けられ能力を発揮できる環境を整えることで、『だれもが“働きやすく×働きがいのある”職場環境』を目指しています。

■ 制度・実績

制度名称	実績 ^{*1}									
	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
育児・介護休業制度	0	28	1	29	2	24	2	28	6	23
育児・介護時短時間勤務制度	0	37	0	36	0	41	1	42	2	46
育児・介護のためのフレックスタイム勤務制度	—	—	8	7	14	10	22	11	33	18
育児・介護のための在宅勤務制度 ^{*2}	—	—	—	—	—	—	—	—	8	22
カムバック制度	結婚・育児・介護等を理由に退職した社員が再び正社員として復職する機会を設ける									

^{*1} 当該年度に制度を利用している社員数 ^{*2} 2018年より開始

■ 「くるみん認定」取得

理研ビタミンは、2015年度から2016年度に当社が取り組んだ「次世代育成支援対策推進法」の「一般事業主行動計画」の活動内容が厚生労働省より認められ、「くるみん認定」を取得しました。



■ 労働安全衛生

理研ビタミンでは、規模や事業内容の異なる事業所に合わせて、安全・衛生管理者や危険物の責任者等を配置し運用しています。

2018年度からは「健康経営」を導入し、働き方改革と連動して長時間労働の削減や有休取得の促進、ストレスチェックの実施、健診のサポートといった従業員の健康増進に向けた取り組みを進めています。

工場では、KYT(危険予知トレーニング)活動や3S(整理・整頓・清掃)の推進により、従業員一人ひとりが高い危機管理能力を持って業務にあたれるよう、安全への取り組みを進めています。

また、安否確認システムの運用訓練や防災用品の配備等、防災体制の整備にも取り組んでいます。

■ QC(品質管理)活動

理研ビタミンでは、工場での業務改善手法として、QCサークル活動を行っています。テーマは、品質管理だけでなく作業性の向上やローコスト、安全等多岐にわたります。社員への教育の一環として、QC検定の取得にも取り組んでおり、これまでに4級67人、3級101人、2級3人、1級1人が合格しました。

定期的に行われる工場での発表大会では、海外関係会社や他事業所が発表して相互に交流しているほか、優秀サークルは社外で開催される発表大会にも参加しています。

特に大阪工場では、社外発表を積極的に行っており、2018年度のQCサークル近畿支部地区大会では、3サークル同時に奨励賞を受賞しました。また、一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)の研修を受け入れ、海外の研修生へQCの事例発表を行いました。



QC発表大会(理研食品)

QC活動を通じて、4つの力の向上を図っています。

リーダーシップをはじめとする 人間力	疑問を持つ心を醸成した 問題解決力	組織や個人の役割を自覚した 現場力	工程で 品質を作りこむ力
------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------

環境

理研ビタミングループは、天然原料の有効活用を事業活動の中心に据えています。地球環境の尊さに感謝し、社会や自然との調和をはかります。

■ 環境マネジメント推進

理研ビタミングループでは、効果的・効率的に環境管理活動を推進していくために、PDCAサイクルをもって運営する体制として「環境会議」を設置しています。

「環境会議」では、会議を構成する各部会が活動に関する定期報告を行い、改善指摘事項等への対応策を協議し、より環境方針に即した事業活動につながるよう、活動を推進しています。

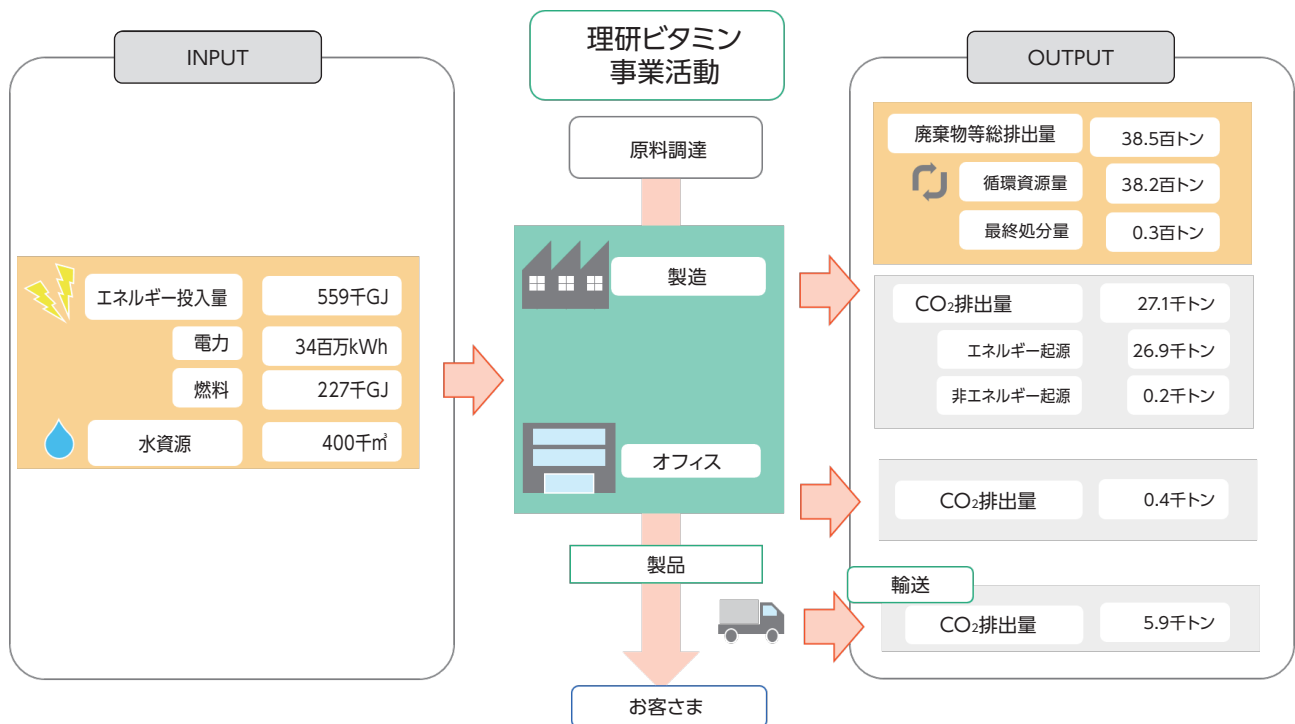
環境会議

議長：理研ビタミン代表取締役 社長
事務局：CSR推進部
開催頻度：半期毎



環境会議

■ 理研ビタミン マテリアルフロー (2018年度)



※集計範囲：国内5工場+オフィス部門、物流部門

FSC®認証紙の採用

理研ビタミングループの家庭用市販品に使用する段ボールについて、国際的な森林認証制度であるFSC®認証紙への切り替えを目指し、「リケンのノンオイル セレクティ®」、「リケンのノンオイル」シリーズに採用しました。

FSC®マークは、その製品に使われている原材料が責任を持って調達されたことを意味しています。FSC®マークのついた製品を選ぶことで、責任ある森林管理を世界に広げ、森林を大切にすることにつながります。



FSC®マークの入った段ボール（「リケンのノンオイル」シリーズ）

RSPOへの加盟

理研ビタミングループは改良剤事業において、パーム油をはじめとする植物油脂を主な原料として使用しています。

「社会や自然との調和をはかりながら事業活動を行う」という環境方針にのっとり、海外生産拠点であるリケベタ・マレーシアでは2010年にRSPOに加盟し、2012年にサプライチェーン認証を取得いたしました。理研ビタミンにおいては、2016年にRSPOに加盟し、2019年3月に国内の改良剤の主力工場である大阪工場・千葉工場においてRSPOのサプライチェーン認証を取得しています。



アブラヤシ

RSPO加盟の背景

パーム油はアブラヤシの果実から採れる、世界で最も多く利用されている植物油ですが、その一方で熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしにさまざまな問題が生じています。

RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）は持続可能なパーム油が標準となるよう市場を変革するというビジョンのもとに2004年に設立された非営利組織で、現在約4,000の団体が加盟しています。

物流部門の取り組み

物流部門では、船便やJRコンテナを利用したモーダルシフト、トラック輸送の積載効率の向上による環境負荷低減や、シートパレットの導入による作業効率化に継続的に取り組んでいます。

2018年度は、具体的なCO₂排出量削減策として、「共同配送」、「小口配送の改善」、「生産場所から地方営業倉庫への直送化」、「幹線輸送の積載効率99%以上」等に取り組みました。今後も物流品質の向上を目指すとともに、環境負荷低減への取り組みを進めます。



シートパレットの導入（理研食品）

海外・関係会社の取り組み

理研ビタミングループの海外事業所においても、CO₂排出量の削減に努めています。

天津理研維他食品有限公司（理研ビタミンのグループ会社）では、照明をLED化したほか、2018年度にはボイラーを更新しNO_x排出量など環境負荷の低減につながりました。



照明をLED化（天津理研維他食品有限公司：中国）

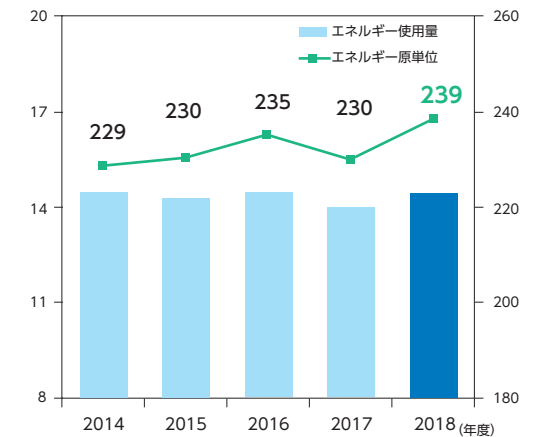
地球温暖化防止

理研ビタミンでは、企業活動による環境への負荷を考慮し、生産性の向上を図るとともに、エネルギーの効率的な利用を推進しています。

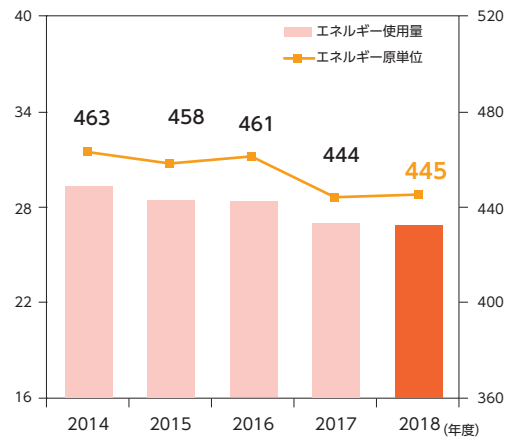
国内工場では、「製造方法の変更による設備稼働時間の短縮」、「放熱抑制によるエネルギーロス削減」といった省エネルギー活動のほか、「タンク冷却水の循環化による水使用量削減」といった環境負荷低減の取り組みを行っています。また、各職場での「ECOパトロール」や「ECOステッカー」配布による活動の周知・PRや、使用エネルギーの「見える化」にも取り組んでいます。

オフィス部門においても、会議・資料のペーパーレス化や営業車の見直しを進めています。

エネルギー使用量および原単位の推移 (千kℓ) (kℓ/千トン)



CO₂ 排出量および原単位の推移



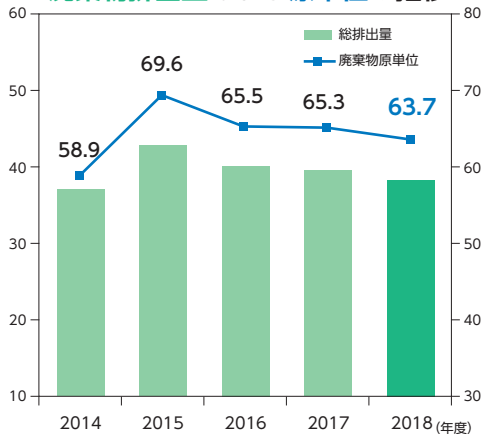
※集計範囲：国内5工場+オフィス部門
 ※原単位分母：販売数量千トン
 ※CO₂ 排出係数：電気事業者別排出係数による

廃棄物の削減

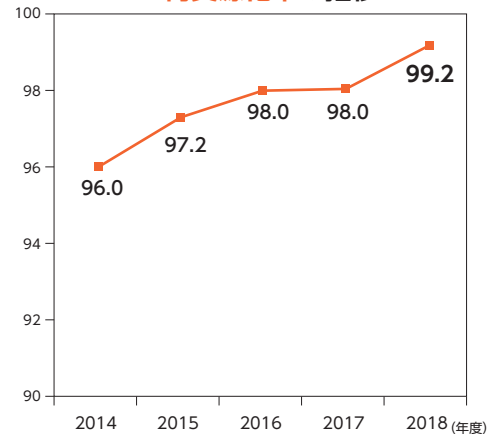
理研ビタミンでは、廃棄物発生量の削減やリサイクルの推進に取り組んでいます。

廃棄物排出量の削減に向けては、製造工程の改善や汚泥含水率の低減に取り組んでいます。また、廃棄物の再資源化率向上のため、廃棄物分別の教育・啓発に取り組んでいるほか、廃棄物を適正に再資源化できる処理業者の選定と、廃棄物の分別処理の徹底を行っています。

廃棄物排出量および原単位の推移



再資源化率の推移



※集計範囲：国内5工場+倉庫

消費者課題

独自性のある原料・技術を活かし、安心安全かつお客さまの満足度を高める商品・サービスを提供します。

品質保証

理研ビタミンでは、お客さまに安全・安心をお届けするために、品質保証部門を他部門から独立させ、客観的かつ一元的な品質保証体制を構築しています。

原材料調達・商品開発・製造・物流・販売まで、担当部門と連携を図り、全てのプロセスで高い品質保証が達成できるよう、以下の取り組みを行っています。

- 国内5工場でFSSC22000の認証を取得、ISO9001と合わせ、理研ビタミンの全工場が食品安全を基点とした品質保証体制の構築に努めています。
- フードディフェンスの強化として、不審者による意図的な危害の防止を目的に、製造部門の協力の下、各生産拠点にモニタリングカメラの設置を完了しました。また、工場入場ルールの見直し、全従業員に対するフードディフェンス教育の実施等、積極的な取り組みを行っています。
- お客さまからの苦情・品質不適合に対して、理研ビタミンのネットワークシステムを活用し情報共有化を図るとともに、迅速な対応を行い、再発防止を徹底しています。

適時適切な情報の開示

理研ビタミンの商品は、おいしさはもとより、さまざまな品質情報をお客さまに開示することにより、安心してお使いいただけるようさまざまな取り組みを行っています。

- 一般消費者さま向け商品は、Webサイトを通じて、商品の原材料ごとに含まれる詳細なアレルギー情報等を提供しています。
- 食品原料等、納品先業者さまからご依頼を受けた商品の規格書、調査書等は、文書発行システムを通して発行管理され、正確な情報を迅速に提供いたします。
- 新商品の表示内容は、表示適合性審査会を開催して審議し、法に則った正確で分かりやすい表示が記載されるように努めています。
- 食品表示法には新商品から随時対応を図りラベル表示の変更を行っており、今後既存商品も順次新制度に合致した表示内容に変更して行く予定です。

お客さまとのコミュニケーション

理研ビタミンでは、一般消費者さま向け商品に関するお問い合わせ窓口として「お客様相談センター」を設置しています。お客様相談センターでは、お客さまからのお問い合わせ、ご意見、ご要望に真摯に耳をかたむけ、ご満足いただける回答をお届けできるよう日々取り組んでいます。

また、寄せられた情報を基に「お客様の声評価会議」を定期的で開催し、ご意見やご要望が商品に反映されるよう、関連部門への働きかけを行う等、継続的な取り組みを行っています。

- 商品に関連する情報のデータベースを充実させることにより、お客さまのお問い合わせに迅速かつ正確にお答えできるよう努めています。
- お客さまからのご意見、ご要望は「お客様の声評価会議」で積極的に取り上げ、必要に応じ改善要請として担当部門に伝達されます。お客さまから寄せられたアイデアは開発部門に伝達され、新商品や商品リニューアル時の参考情報としてストックされます。
- お客さまから寄せられたご意見、ご要望が具体的な改善につながった事例は、Webサイトで公開しご紹介しています。また、よくお寄せいただくお問い合わせやQ&A等も掲載し、商品をより快適にお使いいただけるよう情報公開を行っています。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

事業資産や知見を活かして地域貢献度を高め、コミュニティと一体となった発展に努めます。

理研ビタミンの“未来を拓く食育”

理研ビタミンでは、学校給食を通して「子供たちの食」を豊かにしてきましたが、食育授業を通して「子供たちの健康や食生活」を豊かにする取り組みも進めています。

理研ビタミンの「わかめ学習出前授業」の多くは、小学校の「総合的な学習の時間」の中で学んでいただいています。

授業後の児童の皆さんからの感想は「わかめが想像以上に大きくビックリした」や「体にとって良い食べ物とはじめて知った」等。毎年の授業カリキュラムに入れて下さっている学校も多く、好評をいただいています。

総合的な学習の時間のほかにも、「家庭科」の時間では実際に「わかめおにぎり」を作ったり、「社会科」の時間では5年生の「育てる漁業」の単元に合わせたりと、更に詳しく学んで頂ける内容をご用意しています。

海藻の知識をより深く学んでいただけるよう、取り組んでいます。



五感で感じる体験型授業

実施プラン「わかめパワーのひみつについて探ろう！」

対象：小学校3～6年生

実施単位：クラス毎

実施時間：学校授業時間内(3時間目以降) ※土日・祝日は除く

所要時間：45分

実施場所：理科室、家庭科室、ランチルーム等の特別教室

費用：無料

実施エリア：東京を中心とした千葉県・埼玉県・神奈川県、および宮城県多賀城市を中心とするエリアでの実施とさせていただきます。

※移動時間等の都合によりお受けできない場合があります。ご了承ください。

※学校職員の方が「進行役」、当社スタッフが「ゲストティーチャー」として、一緒に授業を進めます。

食育理念

1. 次世代を担う子供たちと共に、食を通じて健康な体と豊かな心を学ぶ
2. 海藻の生態と機能を楽しく学習し、自然と科学に親しむ環境を提供する
3. 海藻授業を通じて、社会や自然との関わり合いを学ぶ
4. 子供たちと共に自らも学び、社会に貢献する

「みやぎ食育大賞」を受賞しました(理研食品)

グループ会社の理研食品は、平成30年度みやぎ食育表彰(主催：宮城県)にて「みやぎ食育大賞」を受賞いたしました。

宮城県では、食育活動に積極的に取り組み、県民の健康増進、みやぎの食文化の伝承などの分野において、めざましい功績を挙げられた方々を「みやぎ食育表彰」にて表彰しています。理研食品では、わかめ製品のメーカーとして宮城県多賀城市内を中心にさまざまな食育支援活動を継続的に実施しており、これらの取り組みが評価されました。



■ 企業訪問の受け入れ

理研ビタミンでは、総合学習やキャリア教育等で企業訪問を希望される、中学生や高校生の皆さんの受け入れを行っています。先生や生徒の皆さんのご要望に応じて、事業概要や社員の仕事内容を紹介し、理研ビタミンをより深く知っていただくとともに、社員との対話を通じて“働きがい”をはじめ、将来の「仕事」への理解を深めていただけるよう取り組んでいます。



■ 国連WFPへの協力活動

理研ビタミンは、国連唯一の食糧支援機関である「WFP 国連世界食糧計画」の公式支援窓口である「国連WFP協会」の活動に賛同し、2005年から同協会の評議員として飢餓を無くすための活動に参加しています。



■ WFPウォーク・ザ・ワールドへの参加

理研ビタミンの従業員有志で、「WFPウォーク・ザ・ワールド」に参加しています。

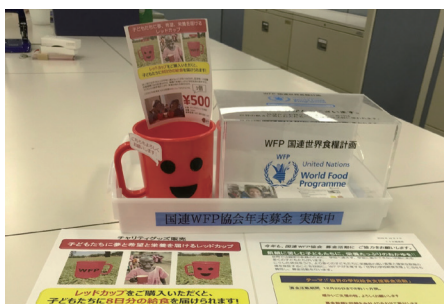
「WFPウォーク・ザ・ワールド」は、途上国の子供たちの飢餓を無くすために、国連WFP協会が開催するチャリティウォークです。参加費の一部は、飢餓の子供たちの成長と就学を支える国連WFPの「学校給食プログラム」に役立てられています。



ウォーク・ザ・ワールド (横浜)

■ 年末募金の実施

理研ビタミンでは、年末に従業員による社内募金やチャリティーグッズの社内販売を行っています。集まった募金は、マッチングギフトとして募金総額に会社が上乗せして、国連WFP協会に寄付しています。



■ 地域のイベントへの参加

食品事業の主力工場である理研ビタミン草加工場は、「草加せんべい」で知られる埼玉県草加市にあります。その縁から、草加の商店街グルメ・名物グルメの祭典である「草加市制60周年記念街グルin草加2018」(主催：草加市)に参加し、草加工場で製造しているドレッシング・だしのセットを販売するブースを出展しました。





CSR

REPORT 2019

理研ビタミン株式会社

〒101-8370 東京都千代田区神田三崎町2-9-18

<https://www.rikenvitamin.jp/csr/>

UD FONT
by MORISAWA

2019年7月 発行